



コミコミスクス

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 176

2022

9.21

鳥羽小学校 学校運営協議会で大学生がプレゼン！！

9月12日（月）に鳥羽小学校で学校運営協議会が開催されました。「LOVE TOBA 大作戦」をキャッチフレーズに2回目の学校運営協議会が開催されました。今回は鳥羽小の環境体験学習等に関わっていただいている「のはらくらぶ」の大学生スタッフさんからの「のはらくらぶ」の取組プレゼンをベースに、地域の中で育つ子どもたちについて熟議が進められたようです。そんな学校運営協議会の様子が届きましたので紹介させていただきます。

第2回鳥羽小学校学校運営協議会

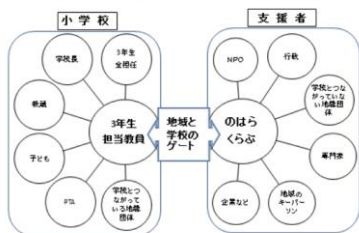
～LOVE TOBA 大作戦第2弾～

鳥羽小の子どもたちが「鳥羽の地で育って良かった！」と大人になって思える…そんな仕組みを作っていくためには、まず、そこに関わる大人たちが「鳥羽の宝」を見つけ、その価値を共有することが重要であると考えました。そんな願いを込めて、今年度の鳥羽小コミュニティ・スクールのキャッチフレーズを～LOVE TOBA 大作戦～としました。

第1弾は、「鳥羽の宝」として、コロナ禍の中、元気いっぱい学ぶ鳥

6. 学校と地域をつなぐ

環境教育コーディネーターの役割



羽小の子どもたちの様子、チームワーク抜群教職員の様子をはじめ、映像を通して1学期途中までの学校生活を見える化しました。

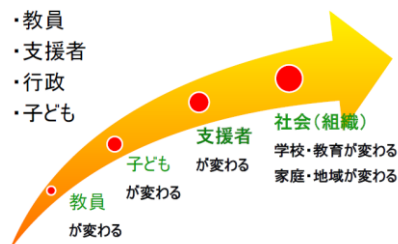
そして、第2弾は、鳥羽の地で環境教育を長年進められている「のはらくらぶ」さんの活動を紹介して頂くことになりました。と言うもの…「のはらくらぶ」で活動している大学生または高校生は、鳥羽小の卒業生が多いのです。

そして、自分たちが小学生の時に「のはらくらぶ」でそれぞれが貴重な出逢いや経験をしてきたことが、直接的な動機となり、現在活動を続けているのです。

8. 成果について

「気づきの往還」による相乗効果生まれる

- ・教員
- ・支援者
- ・行政
- ・子ども



まずは、「のはらくらぶ」の創設者であり、運営協議会委員でもある丸谷聡子さんから「のはらくらぶ」設立の背景や現在までの経緯の説明がありました。

元々は3年生の環境教育のお手伝いをしていたが、まちづくり協議会、学校の協力もあり、放課後自然たんけん隊が発足。そこで、小学生ジュニアリーダーが誕生しました。そんなリーダーが大学生になり、スタッフとして戻ってきたのです。



環境体験学習での限界 未来のリーダーを育てるには？

- 環境体験事業での課題
 - ・関心を強く持った子どもたちの受け皿が必要
 - ・未来のリーダーの資質を持つ子どもたちを大切に育てたい
- フォローアップでの課題
 - ・親子観察会・・・親は関心が高いが、子どもは興味や関心が低いケースが多く見られた。
 - ・本当に届けたい子どもたちのところに届かない！
- 放課後のたんけん隊の誕生
 - ・課題解決するためには、どうすればよいのか？
 - ・スタッフで何度も話し合うその時運命の一言が「子どもたちが来れないなら、私たちが行こうよ！」⇒放課後自然たんけん隊

課題解決にむけて 鳥羽小学校での新たな展開のはじまり 未来のリーダー集まれ！ 放課後の自然たんけん隊



そして、大学生のスタッフから現在の取組の紹介がありました。現在は、「のはらくらぶ」の活動の他に「のはらじゅく」で一人一人の小学生に寄り添いながら、

次代を任せられると確信している若者スタッフ & 次々代を託したいジュニアリーダーたち・・・



大学生になって戻って来てくれた！
ジュニアリーダーから大学生スタッフへ
これからの「のはらくらぶ」はみなさんに任せます

環境教育や学習指導を行っています。

そんな彼らの原動力、それは、やはり小学校の時の様々な出逢いです。

「ジュニアリーダーのお兄さん、お姉さんに憧れて・・・」
「スクールガードさんに毎朝、挨拶してもらったことが忘れられない・・・」

「自然たんけん隊で生き物に興味を持ち、今の大学で学んでいる・・・」 などなど

それを聴いていた運営協議会の皆さんからも

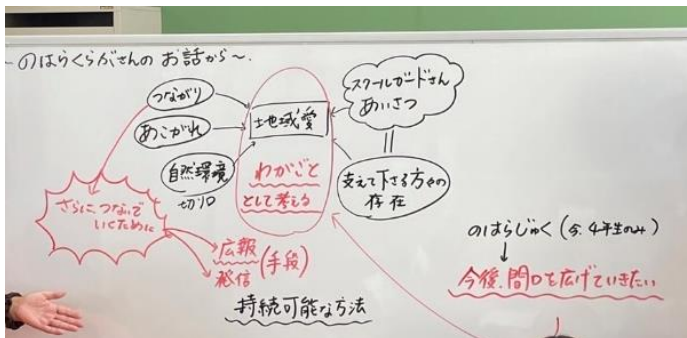
「自分にも何かできることがあるはず・・・」

「立ち上げから知っているが、大学生になって帰って来てくれて嬉しい」などの声もありました。

改めて「出逢い」の大切さを感じました。そして、それをつないでいく責任も感じた時間になりました。



また一つ「鳥羽の宝」発見の時間になりました。



“のはらくらぶ”の大学生スタッフさんは、地域の中で、いろいろな人の中で、育ってきたんだと感じます。“のはらくらぶ”さんにはいろいろな世代のスタッフさんがおられます。若者スタッフ、子育て世代スタッフ、第2の人生世代スタッフ、そして次代の担い手のジュニアリーダーと人の循環が始まっているように感じます。そ

して、“のはらくらぶ”さんの活動を見てみると、学校と地域の橋渡しであり、学校教育とか社会教育といった垣根を取っ払い、学びが人生を充実させていく生涯学習の仕組みを創りだしているのだと感じました。

学校の中だけの学びではなく、外ともつながった学びの中で、子どもたちの興味関心は広がっていくんだと改めて感じました。鳥羽ではそうした学校の外とつながった学びが10年前から「放課後校庭の自然たんけん隊」としてスタートし、地域の中に根付いてきています。次は、いかに学校の学びとリンクさせていくかだと感じます。学校の中と外とをリンクさせるのがコミュニティ・スクールだと考えます。

(文責：北本)